

－ オ ケ ラ －

学名：*Atractylodes japonica* Koidz. ex Kitam.

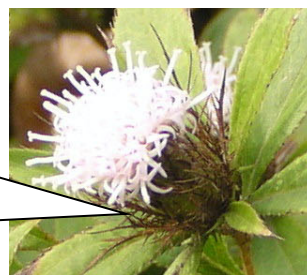
科名：キク科

属名：オケラ属

形態：大陸系の植物で、日本、朝鮮半島、中国東北部に分布する。日当たりの良い山地に生える多年草。茎は細くて堅く、葉は互生し楕円形で刺状の細かい切れ込みがある。夏から秋白色の花を咲かせる。



花の部分の拡大。外側の総苞片(花びらを支える外側の部分)が細かく切れていて魚の骨のように見えるのが特徴。



成分：atractylon、atractylenolide I～III、3 β -acetoxyatractylon など

使用部位：根茎(根のように見える茎)

用途：根茎を白朮といい、止汗薬、芳香性健胃薬(独特の香りによって嗅覚を刺激して胃の機能を促進させること)、利尿薬、強壮薬として用いる。

同属のホソバオケラの根茎は蒼朮と呼ばれ、白朮と類似した効果を持つが基原植物や成分が異なるため区別される。

製剤：苓桂朮甘湯、五苓散、四君子湯、十全大補湯 他多くの処方に配合されている。

「山でうまいはオケラにトトキ…」と唄われるほど古くから庶民にも親しまれていた植物で、薬用、食用、邪気払いとして用いられてきた。根に含まれる精油には防かび作用があり昔は土蔵のカビ取りや防止に根を燻して用いられていた。お屠蘇(数種類の生薬からなる屠蘇散を酒やみりんに漬け込んだ薬酒)の原料としても知られており、正月に飲んで無病息災や健康長寿を祈る。

参考文献：

- ・水野瑞夫 監修「薬用植物学 改訂第7版」南江堂
- ・竹田忠紘 他「天然医薬資源学 第6版」廣川書店
- ・森正孝、森昭雄、國分英俊 著「改訂版 薬草の吟き」 メディカルサイエンス社

2020.9.26 4YP S.M.